



第1部

♪ スカラムーシュ Op.165c

1楽章 ヴィフ（明るく活発に）

2楽章 モデーレ（穏やかに）

3楽章 ブラジレイラ（ブラジルの女）

♪ ジムノペディ1番

♪ S. V. P. （シルヴブレ）

♪ ツィガーヌ タンゴ

♪ ノニーノ

♪ 愛の讃歌

♪ 即興曲第15番

～エディットピアフを讃えて～

♪ ソナタ FP164

1楽章 アレグレット マリンコーニコ（少し速く、少し憂鬱に）

2楽章 カンティレーナ（詠嘆歌）

3楽章 プレスト ジョコーゾ（陽気に、非常に速く）

D. ミヨー（1892～1974）

E. サティ（1866～1925）

A. ピアソラ（1921～1992）

M. モノ（1903～1961）

F. プーランク（1899～1963）

F. プーランク



第2部

♪ パゴダ（塔）

～ピアノ曲集「版画」より～

♪ タール（鞠つき歌）

♪ おちゃらか

♪ ペチカ・待ちぼうけ・この道

♪ わらべ歌春秋

♪ 五木の子守唄

♪ 木琴小協奏曲

1楽章 アレグロ（お囃子風に）

2楽章 アダジエット（追分風に）

3楽章 プレスト（追い立てられるように）

C. ドビュッシー（1862～1918）

パキスタンのわらべ歌

日本のわらべ歌

山田 耕祐（1886～1965）

千秋 次郎（1934～）

熊本民謡

黛 敏郎（1929～1997）

演奏者プロフィール

マリンバ：明瀬 由武 AKASE Yoshitake

東京芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。各ラジオ・テレビに出演。ポピュラーの分野でも全国的に演奏活動を行う。NHK・FMにて新実 徳英「For Marimba I」、西村 朗「ソロマリンバのための詩曲」他、数多くのマリンバ作品の初演をする。青年海外協力隊々員として中米コスタリカに派遣される。国立音楽院ソルフェージュ科教授、国立交響楽団打楽器奏者。在任中、国立劇場をはじめ各地にてリサイタルを行う。

現在、東京・つくばをはじめ各地にて演奏活動を行っている。

1998年CD「マリンバの贈り物～クリスマスの日～」

2007年CD「マリンバの贈り物パート2～星降る夜に～」

ピアノ：高瀬 奈美 TAKASE Nami

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。在学中より打楽器、声楽などの共演者として活躍。

現在各地にてコンサートの企画、演奏活動を行っている。2002年よりバイオリン、フルート、声楽などのゲストを迎えて「夜想曲シリーズ」を展開。また2008年よりソロシリーズ「ピアノ叙情詩集」をスタートさせている。

2000年CD「ソナタとインターリュード」

編曲者

水沼 寿和 MIZUNUMA Toshikazu スカラムーシュ、ソナタ FP164 2楽章

野田 雅巳 NODA Masami ジムノペディ 1番、ピアソラ作品、タール、おちゃらか

吉岡 孝悦 YOSHIOKA Takayoshi 愛の讃歌、ペチカ、この道

織田 英子 ORITA Eiko 五木の子守唄

マリンバ と ピアノによる

MIXMAGIC

ミックスマジックコンサート Vol.3

マリンバ 明瀬 由武

ピアノ 高瀬 奈美

2012年1月8日(日) 2:00PM (開場1:30PM)

MUSICASA

主催：久守文化基金

ミックスマジックコンサート・・・

マリンバとピアノ。どちらも鍵盤を叩いて音を鳴らす楽器。

一見ぜんぜん似ていないけれど、よく似ている楽器・・・。

マリンバは木の響きをパイプがひろげ、ピアノは金属ワイヤーの響きを木の響板がひろげる。

あべこべのようで、実は同じよう・・・。

あまりに、その二つの楽器は、同じような素材を使って出来ているので、時々似通った音を出してお互いを邪魔してしまう。

なかなか合わせるのが難しい楽器同士でもあります。

でも、それが上手くいったときには、魔法の時が訪れます。

作曲家、編曲者、演奏者、それぞれの個性がミックスされ新しく生まれる時間を、聴きに来て下さった皆さんと共に楽しみたい・・・。

そんな想いからミックスマジックコンサートを始めました。

どうぞ、魔法の時をお楽しみください。

～今日のプログラムについて～

今から 100 年ほど前、日本にヨーロッパ音楽が紹介されはじめた頃、フランスのパリでは万国博覧会が開催され、世界各国の文化が紹介されました。なかでも、東洋や日本の文化は、当時のパリの芸術家たちに大いに刺激を与えたようです。

今日のプログラムは、前半に、その時代の流れのなかで活躍したパリの作曲家たちの作品、後半は、ヨーロッパの影響を受けながらも日本の感性を大切に表現した作曲家たちの作品で構成しています。

第1部

♪ スカラムーシュ Op.165c D.ミヨー

20世紀前半に活躍した6人のフランス人作曲家は『フランスの6人組』と呼ばれています。ミヨー、プーランクはそのメンバーです。ミヨーは弦楽四重奏曲 18 曲、交響曲 12 曲、室内交響曲 6 曲、ピアノ協奏曲 5 曲、ヴァイオリン協奏曲 3 曲、その他膨大な作品を残しています。

この曲は 1937 年にこどものための劇『空飛ぶお医者さん』に付けた音楽がオリジナルです。それが作品番号 165a、それをもとにミヨー自身が二台のピアノのために作り直したものが 165b、そして、アルトサクソフォンやクラリネットとオーケストラのためのものが 165c です。今日はサクソフォンのオリジナル楽譜を元に、マリンバ用に編曲したものを演奏します。なお、1 年ほどですが、ミヨーはフランス大使の秘書としてブラジルに滞在したことがあり、この作品にはサンバの影響がみられます。

♪ ジムノペディ1番 E.サティ

サティは「音楽界の異端児」、「音楽界の変わり者」などと呼ばれていますが、新しい試みをして西洋音楽に大きな影響を与えました。彼は 3 曲の『ジムノペディ』を書いていますが、『ジムノペディ』とは古代ギリシアの神々をたたえるお祭りのことを言うらしいのです。3 曲とも最初から最後まで 3/4 拍子のゆったりとしたテンポと簡素な曲調、独特の愁いを帯びたメロディが特徴として挙げられ、特に 1 番が彼の代表的作品として有名です。

♪ シルヴレ、ツィガーヌ タンゴ、ノニーノ A.ピアソラ

アルゼンチン生まれのピアソラは、タンゴ演奏者、作曲家として有名ですが、幼少時代をニューヨークで過ごし、またクラシックの音楽教育を受けたことで、彼の作品にはそれらが色濃く反映されています。さて、彼自身がそのタンゴ音楽に限界を感じてクラシックの作曲家を目指したい、と 1954 年にフランスに渡りました。結局、フランスの著名な音楽教育者（ナディア・ブーランジェ）から「タンゴこそピアソラ音楽の原点だ！」と指摘されて、フランス滞在はわずか 1 年で終わりました。この 3 曲はピアソラのフランス時代に書かれたものです。

♪ 愛の讃歌 M.モノ

作詞エディット・ピアフ、作曲マルグリット・モノによるこの曲は、シャンソン（フランスの歌謡曲）の代表作として世界中で親しまれています。

♪ 即興曲第 15 番～エディットピアフを讃えて～ F.プーランク

プーランクは生粋のバリっ子 都会人で、彼が作る曲は、軽快、軽妙、ユーモアと知性に溢れており、「エスプリの作曲家」とも言われています。

クラシックの作曲家プーランクがシャンソン歌手のエディット・ピアフの存在・生き方・芸術に対する姿勢・影響力など色々な面に傾倒し、それを讃える意味で作曲されたと言われています。

♪ ソナタ FP164 F.プーランク

このソナタ FP 164 はフルートのために書かれました。プーランク晩年の 1957 年に完成された彼の代表作の一つであり、20 世紀のフルートソナタの最高傑作と言われています。なお FP というのはプーランクの作品を整理するために付けられた頭文字ですが、それが付いていないものも多いようです。今日は 1、3 楽章はフルートのオリジナル楽譜を、そして 2 楽章はマリンバ用に編曲したものを演奏いたします。

第2部

♪ パゴダ（塔）～ピアノ曲集「版画」より～ C.ドビュッシー

フランスの作曲家クロード・ドビュッシーは印象派音楽の先駆者と言われています。彼は日本文化にも興味をもっていて、この 1903 年に完成した「版画」も、浮世絵をイメージしていたと考えられます。その第一曲目「パゴダ（塔）」は、彼が 1889 年にパリ万博で聴いたインドネシアのガムラン音楽をモチーフに、東洋にある「仏塔」が立ち現れる様子を幻想的に描き出しています。

♪ **タール、おちゃらか** **パキスタン民謡、日本民謡**
皆さんはNHK・FMの青春アドベンチャーやFMシアターという番組をご存知ですか。編曲者の野田さんはその音楽も担当しています。98年に知り合ってから、たくさんの曲をマリンバのためにアレンジしてもらっています。斬新な響きのするアレンジで、マリンバとピアノが格闘しているのではと思ったり、マリンバとピアノのどちらが音を出しているのかが、演奏していてちょっとわからなくなったりする不思議な響きのするアレンジです。

♪ **ペチカ・待ちぼうけ・この道** **山田 耕作**
山田耕作は、東京音楽学校を卒業した後、ベルリンの王立アカデミー音楽院に留学しました。そして、日本人としては最初の交響曲「かちどきと平和」を作曲しました。帰国後、1915年には、日本初の管弦楽団をつくるなど、西洋音楽の普及に努めました。また、ニューヨークのカーネギー・ホールで自作の管弦楽曲を演奏、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やレニングラード・フィルハーモニー交響楽団等を指揮するなど国際的にも活動、欧米でも名前を知られた最初の日本人音楽家です。
特に日本語の抑揚を活かしたメロディーで多くの歌曲（あかとんぼ、からたちの花、中国地方の子守唄、兎のダンス、砂山・・・）を残し、教科書などで取り上げられています。

♪ **わらべ歌春秋** **千秋 次郎**
日本全国に広く知られている「あんたがたどこさ」「かぞえうた」「すいすいずっころばし」のわらべ歌がメドレー風になっています。「かぞえうた」では、ピアノパートから「六段」が、マリンバパートからは「かごめかごめ」が聞こえてきます。

♪ **五木の子守唄** **熊本民謡**
編曲者の織田さんにはアレンジ作品やオリジナル作品など、たくさんの曲を書いていただきました。特に、クリスマスシリーズは1998年と2007年にCDになりました。この曲は1987年、つくばの最初のリサイタルで演奏した思い出深い曲です。

♪ **木琴小協奏曲** **黛 敏郎**
黛 敏郎は20世紀日本のクラシック音楽・現代音楽界を代表する音楽家の一人と言われています。若い頃はフランス現代音楽界の影響を強く受け、電子音楽、テープ音楽、ミュージック・コンクレートなどの分野を、当時いち早く日本の音楽界に導入していますが、代表作「涅槃交響曲」（1958年）発表以降は、日本的な素材・思想への関心がより高まり、作品にも大きく反映させています。他に「曼荼羅交響曲」「オペラ 金閣寺」「バレエ音楽 舞楽」などがあります。また、200曲近い映画音楽も担当しています。
1965年に完成したこの小協奏曲は、日本的な要素が随所にみられる作品です。木琴奏者平岡養一の依頼により作られましたが、出来上がった作品を平岡が気に入らなかった、というエピソードが残っています。

愛の讃歌（訳詞：岩谷時子）
あなたの 燃える手で あたしを抱きしめて ただ二人だけで 生きていきたいの
ただ命の限り あたしは愛したい 命の限りに あなたを愛したい
頬と頬よせ 燃えるくちづけ 交わすよろこび
あなたと 二人で暮らせるものなら なんにもいらない なんにもいらない
あなたと 二人で生きていくのよ あたしの願いはただそれだけよ あなたと二人
かたく抱きあい 燃える指に髪を からませながら いとしみながら
くちづけを交わすの 愛こそ燃える火よ あたしを燃やす火 心とかす恋よ

ペチカ（作詞：北原白秋）
雪のふる夜は たのしいペチカ ペチカ燃えろよ お話しましょ
むかしむかしよ 燃えろよペチカ
雪のふる夜は たのしいペチカ ペチカ燃えろよ おもては寒い
栗や栗やと 呼びますペチカ
雪のふる夜は たのしいペチカ ペチカ燃えろよ じき春来ます
いまに楊も 萌えましょペチカ
雪のふる夜は たのしいペチカ ペチカ燃えろよ 誰だか来ます
お客さまでしょ うれしいペチカ
雪のふる夜は たのしいペチカ ペチカ燃えろよ お話しましょ
火の粉ばちばち はねろよペチカ

待ちぼうけ（作詞：北原白秋）
待ちぼうけ 待ちぼうけ ある日せつせと 野良かせぎ
そこへ兎が とんで出て ころり転げた 木の根っこ
待ちぼうけ 待ちぼうけ しめたこれから 寝て待とか
待てばえものは かけてくる 兎ぶつかれ 木の根っこ
待ちぼうけ 待ちぼうけ きとう鰍とり 畑仕事
きょうは頬づえ ひなたぼこ うまい切り株 木の根っこ
待ちぼうけ 待ちぼうけ きょうはきょうはで 待ちぼうけ
あすはあすはで 森の外 兎待ち待ち 木の根っこ
待ちぼうけ 待ちぼうけ もとはすずしい 黎畑
今は荒野の ほうき草 寒い北風 木の根っこ

この道（作詞：北原白秋）
この道は いつかきた道 ああ そうだよ あかしやの 花が咲いてる
あの丘は いつか見た丘 ああ そうだよ ほら白い 時計台だよ
この道は いつかきた道 ああ そうだよ お母様と 馬車で行ったよ
あの雲も いつか見た雲 ああ そうだよ 山査子(さんざし)の 枝も垂れてる